

生命のかたち — 中川幸夫の天地創造

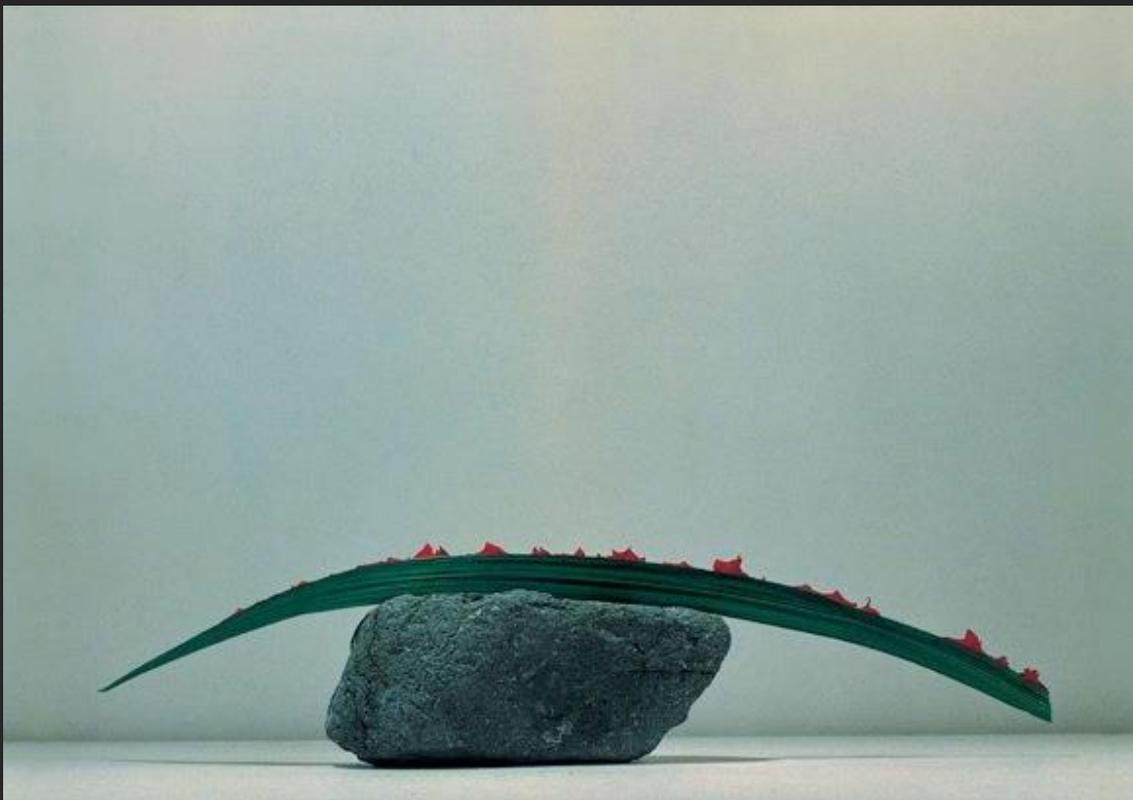
いけ花作家・中川幸夫が抱きつづけた
「造型の芸術から生命の芸術」というヴィジョン
この創造の源泉を森山明子が解体する

●講演：森山明子（武蔵野美術大学教授）

2014年10月28日（火）16時30分 — 18時30分

東京大学駒場キャンパス（目黒区駒場3-8-1）

18号館3階 コラボレーションルーム4



「怒り業 SWORD OF RANCOR」1969年（花菖蒲／カーネーション／凝灰岩）

●森山明子

（Moriyama Akiko）武蔵野美術大学教授。『日経デザイン』の創刊にかかわり、'93-'98年編集長。ジャーナリズムの手法で造形作家の評伝を執筆・発刊。アートとデザイン関連の書籍の監修・編集・執筆、新聞・雑誌への寄稿、デザインイベントのパネリストやコーディネーター等を務める。主な著書に、『魔の山 中川幸夫作品集』編集及び年譜（求龍堂）、『まっしぐらの花—中川幸夫』（美術出版社）、『石元泰博—写真という思考』（武蔵野美術大学出版局）、「デザイン・ジャーナリズム新聞」（私家版）がある。

